

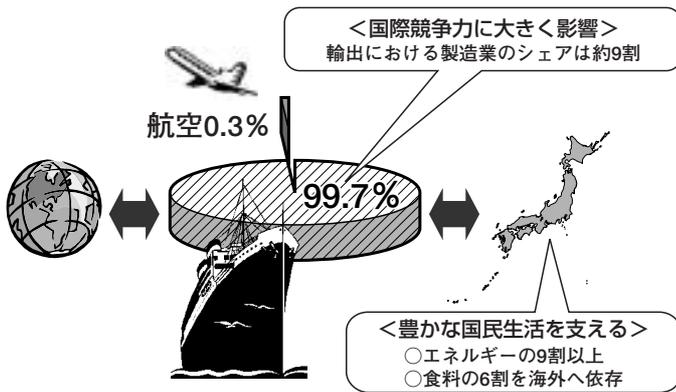
港の果たす役割

1 我が国の国際競争力強化及び国民生活の質の向上

エネルギーの9割以上及び食料の6割を海外に依存する資源小国である我が国においては、製造業をはじめとする産業の輸出や食料資源の輸入などの貿易が、経済活動及び国民生活を支えている。

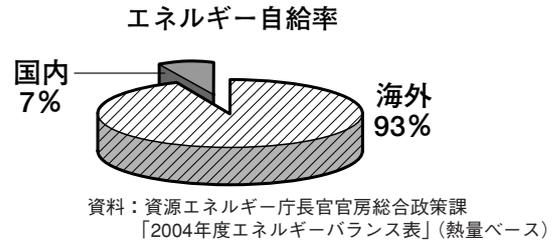
このため、輸出入貨物量のほぼ全て（99.7%）を扱う港湾を通して、コスト、スピード、安全性及び信頼性の面で国際水準を確保した物流体系を形成し、我が国の国際競争力強化及び国民生活の質の向上を図ることが極めて重要である。

■輸出入貨物量の99.7%を取扱う港湾

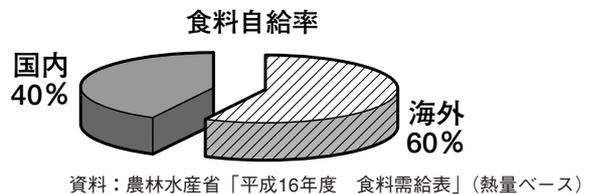


資料：日本関税協会「外国貿易概況」（2005年）、農林水産省「食料自給表」、経済産業省「総合エネルギー統計」及び日本銀行国際局「国際収支統計月報」

■エネルギーの93%は海外からの輸入に依存

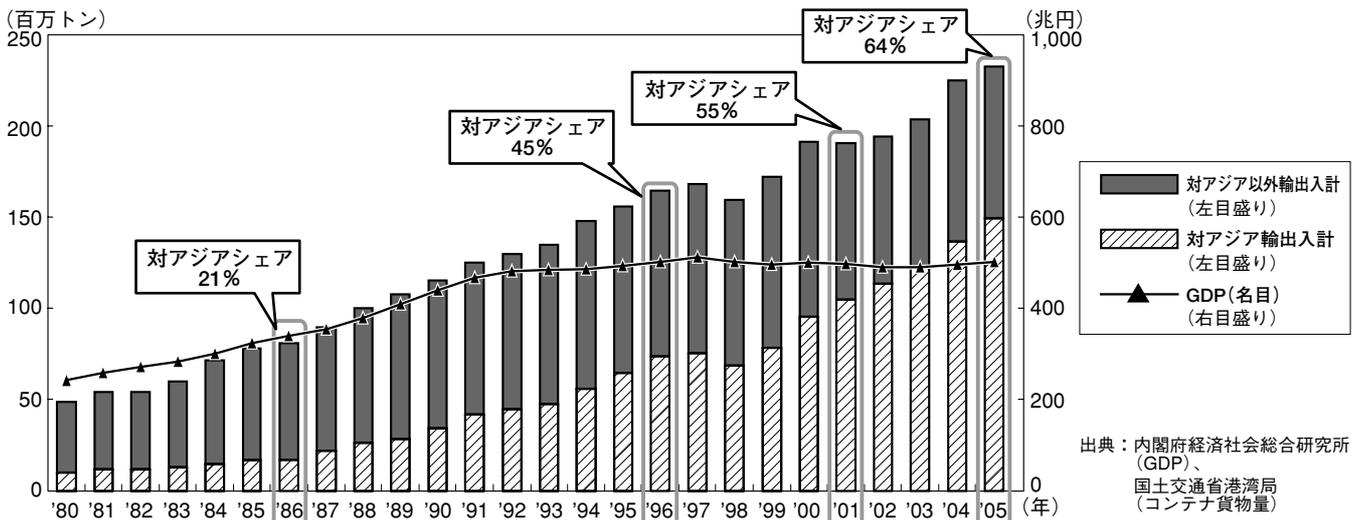


■食料の60%は海外からの輸入に依存



我が国のコンテナ輸出入貨物量の増加

○GDPが伸び悩む近年においても、我が国のコンテナ輸出入貨物量は堅調な伸びを示している。なかでも、対アジア諸国のコンテナ貨物量は大きく増大。



	輸出入計	対アジア輸出入計	GDP(名目)
'01→'05の4年間	1.22倍 (年平均伸び率 5.09%)	1.43倍 (年平均伸び率 9.33%)	1.01倍 (年平均伸び率 0.28%)
'96→'05の9年間	1.41倍 (年平均伸び率 3.90%)	2.02倍 (年平均伸び率 8.13%)	1.00倍 (年平均伸び率 0.00%)
'85→'05の20年間	2.88倍 (年平均伸び率 5.92%)	8.74倍 (年平均伸び率 12.08%)	1.48倍 (年平均伸び率 2.10%)

2 国民生活の安全・安心の向上

港湾は、国民生活や産業活動を支える重要な物流・生産基盤であり、また、背後には多くの人口・資産が集積しているため、高潮・津波等の災害から、人命・財産を直接防護する港湾海岸施設の役割は非常に重要である。

また、平成7年に発生した阪神・淡路大震災においては、内陸の交通手段が被害を受けたため、緊急物資等の輸送において海上輸送が重要な役割を担った。

各地で大規模地震の発生が切迫するなか、地域の防災力の向上と災害に強い海上輸送ネットワークの構築を図るため、大規模地震発生時に港湾・海岸に求められる防災機能を強化する施策の推進が必要である。

●背後地が大都市やみなとまち



東京港海岸（東京都）



呉港海岸（広島県）

防護が必要な海岸延長
(港湾海岸分)
4,377km

港湾海岸 約29%	他所管の海岸 約71%
--------------	----------------

防護すべき人口
(港湾海岸分)
約755万人

港湾海岸 約62%	他所管の海岸 約38%
--------------	----------------

港湾海岸の背後には多くの人口が集中している。

●物流・産業機能が高密度に集積



大阪港海岸（大阪府）



千葉港海岸（千葉県）

市町村の面積
(港湾所在市町村分)
約9万km²

港湾所在市町村 約24%	その他市町村 約76%
-----------------	----------------

市町村の工業出荷額
(港湾所在市町村分)
約110兆円

港湾所在市町村 約41%	その他市町村 約59%
-----------------	----------------

港湾が所在する市町村の工業出荷額は大きい。

【集積する人命・財産を守る港湾海岸】

●臨海部防災拠点のイメージ

災害時には、緊急物資を海上から大量に搬入することが可能であるとともに、緊急物資の保管場所などとして用地の確保が可能であることから、人口が集中する臨海部の防災拠点として港湾の役割は重要である。



■阪神・淡路大震災の事例 神戸港



【災害に強い海上輸送ネットワーク】